

沖縄県立那覇西高等学校 推薦入試 選抜基準 (令和6年度入学者選抜)

1. 普通科 **次の1.~3.の3項目**を点数化して、その総得点を合否判定の基準とする。

- 内申点 (中学1年、中学2年、中学3年の9科目の5段階評定の合計)
- 自己表現または個性表現の実績
(ア)~(エ)の項目について、以下の基準で点数化する。
受検生が申請した推薦項目についてのみ、最も高い実績を1つだけ採用する。

【自己表現の分野】

分野		ランク	A	B	C	D	E
(ア) 文化活動			全国大会で最優秀賞 優秀賞 金賞	全国・九州入賞 県最優秀賞 又は準ずる賞	県大会 優良賞以上 又は準ずる賞	県佳作・入選、 地区金賞 又は準ずる賞	その他
	合唱 コンクール	NHK	-	-	金賞	銀賞・銅賞	-
		沖縄県	-	-	金賞	銀賞	銅賞
		校内・学級	-	-	-	-	全て
	沖縄県吹奏楽コンクール	-	-	金賞	銀賞 Bパート最優秀賞	銅賞	
(イ)スポーツ活動 (中体連、競技団体主催)			全国大会 出場	九州大会出場 指定強化選手	県大会 ベスト4以上に値する	地区大会 準優勝以上に値する	その他
(ウ)社会活動、ボランティア活動			全国表彰	九州表彰	県表彰	地区表彰	その他
(エ) 資格取得等	英検・漢検・数検		2級以上	準2級	3級	4級	その他
	書道					有段者	
	硬筆・毛筆検定					3級以上	
	珠算					3級以上	
	剣道・空手					1級以上	
	柔道					3級以上	

【個性表現の分野】

分野	基準・得点
(ア)音楽、美術、書道などの芸術分野	1分野のみを自己表現のランクに準じて評価するが、 ランクCを基本 とし、面接内容を合わせて審議する。
(イ)文芸、研究などの分野	
(ウ)舞踊、創作ダンス、手話等の身体的活動を伴う分野	
(エ)留学などの体験分野	

- 特別活動(調査書表記または証明書がある事)

分野		ランク	A	B	C	備考
(1)	生徒会		会長	副会長・書記・会計	-	(1)~(3)の加点は3ヶ年で1回
(2)	学級		-	-	正副級長	
(3)	部活動		-	部長	-	
(4)	部活動		-	3年間通じて活動	-	(4),(5)はどちらか1つを加点
(5)	申請分野以外		-	自己表現のランクB以上の実績	-	

II. 国際人文科 **次の1.~3.の3項目**を点数化して、その総得点を合否判定の基準とする。

1. 内申点(中学1年、中学2年、中学3年の9科目の5段階評定の合計)

2. 自己表現または個性表現の実績

(ア)~(エ)の項目について、以下の基準で点数化する。

受検生が申請した推薦項目についてのみ、最も高い実績を1つだけ採用する。

【自己表現の分野】

分野		ランク	A	B	C	D	E
(ア)文化活動	英語弁論大会等 各種コンテスト		全国・九州出場	県大会出場	市町村大会出場	—	—
	美術・書道系	—	—	全国大会で 最優秀賞 優秀賞 金賞	全国・九州入賞 県最優秀賞 又は準ずる賞	県大会 優良賞以上 又は準ずる賞	県佳作・入選、 地区金賞 又は準ずる賞
	音楽系	—	—	—	—	—	—
(イ)スポーツ活動 (中体連・ 競技団体主催)	大会等	—	全国大会 出場	九州大会出場 指定強化選手	県大会ベスト4以上 に値する	地区大会 準優勝以上 に値する	
(ウ)社会活動 ・ボランティア活動	活動等	—	全国・九州 で表彰	県で表彰	地区表彰	—	
(エ)資格取得等	英検	2級以上	準2級	3級	—	—	—
	国連英検	C級以上	D級	—	—	—	—
	TOEIC	高校修了程度相当	高1・2年程度相当	英検3級相当	—	—	—
	その他の英語検定	高校修了程度相当	高1・2年程度相当	英検3級相当	—	—	—
	英語以外の外国語検定	高校修了程度相当	高1・2年程度相当	英検3級相当	—	—	—
	外国語検定	2級以上	準2級	3級	—	—	—
	珠算・硬筆毛筆	—	—	—	—	—	3級以上
	硬筆毛筆検定	—	—	—	—	—	3級
書道	—	—	—	—	—	有段者	

【個性表現の分野】

分野	基準・得点
(ア)音楽、美術、書道などの芸術分野	1分野のみを自己表現のランクに準じて評価するが、 ランクCを基本 とし、面接内容を合わせて審議する。
(イ)文芸、研究などの分野	
(ウ)舞踊、創作ダンス、手話等の身体的活動を伴う分野	
(エ)留学などの体験分野	

3. 特別活動

分野		ランク	A	B	C	備考
a.	① 英語関係大会出場 国際交流事業参加		校外大会出場 校外事業参加	校内大会出場 校内交流役員	—	①~③の各項目の 最上位のものを 1回のみ加点
	② 生徒会・学級活動		会長	副会長・執行部	正副学級長	
	③ 部活動	—	—	部長	—	
b.	④ 部活動	—	—	3年間を通じて活動	—	④または⑤の いずれかを加点
	⑤ 申請分野以外	—	—	自己表現のランクB 以上の実績	—	

Ⅲ. 体育科

次の1.の観点を踏まえ、2.の(1)、(2)を点数化し、その総得点を合否判定の基準とする。

1. 体育科の特性を考慮し、次の観点から選考する。

- (1) 心身共に健康で、専門の実技科目等の履修が可能であること。
- (2) 実技検査を実施する。
 - ①共通種目：新体力テストの4種目（反復横とび、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび）
 - ②各種目の検査：実技検査種目に関する調査書で申請した種目
- (3) 中学校で上記専攻種目のスポーツ活動の実績があり、且つ高校入学後下記専攻種目での部活動を3カ年間継続する強い意志、意欲があること。
- (4) 面接の結果が良好であること。（点数化はしない）
- (5) 内申（評定）の平均が原則として、3.0以上であること。

2. 内申点と実技点の配分

(1) 内申点

（中学1年、中学2年、中学3年の9科目の5段階評定の合計135点を180点に換算）

(2) 自己表現・個性表現及び実技テスト

① 自己表現・個性表現の実績目安

中学校における実績（専攻種目に関するもの）

※実績は得点の高い1項目を採用する。

ランク	A	B	C	D	E
内容	全国大会 出場	九州大会 出場	県の強化選手に 指定されたもの	県大会 3位入賞	県大会出場 (3年次)

② 実技テスト

項目	内容
ア 新体力テスト	反復横とび、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび
イ 各種目	基本技能、応用技能、ゲーム等

※ 専攻種目

陸上競技（男・女）・水泳（男・女）・柔道（男・女）・ハンドボール（男・女）・サッカー（男子）